

大成HD、傘下2社統合

化学材料経営基盤を強化

【千葉】大成ホールディングス(HD、東京都葛飾区、徳倉俊一社長)は、2025年4月1日付で事業会社の大成ファイナケミカル(千葉県旭市)と大成化工(同成田市)を経営統合する。

同年に設立100周年を迎えるのを機に、事業会社の経営品質のさらなる向上や技術的に対応できる領域の拡大、イノベーション創出、コスト削減を実現し、グループの経営基盤を強化する狙い。統合会社は26年3月期に売上高46億円を見込む。売上高経常利益率は5%以上を目指す。

来年度売上高46億円

存続会社は大成ファイナケミカルで、社名は変更しない。大成ファイナケミカルは稲生豊人氏が社長を兼任しており、引き続き社長を務める。本社は大成ファイナの営業所・

大成ファイナは持続的な成長に必要な国連の持続可能な開発目標(SDGs)や、法令順守、企業の社会的責任(CSR)、事業継続計画(BCP)などを整備する委員会を設置する。全社的に品質管理体制を強化する部門も設け、経営と商品

や事業部ごとの縦割り設備・研究投資する。大成ファイナは機能を付与する樹脂材料や景観舗装材などを手がける。25年3月期の売上高は前期比3.0%増の34億円を見込む。大成化工は分散体や特殊コーティング材などを開発する。同期の売上高は前期比並みの11億円を見込む。

大成ファイナは持続的な成長に必要な国連の持続可能な開発目標(SDGs)や、法令順守、企業の社会的責任(CSR)、事業継続計画(BCP)などを整備する委員会を設置する。全社的に品質管理体制を強化する部門も設け、経営と商品